

科 目 名		学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
現代社会: Present-Day Society		1EB	2	90分×30回	履修	講義・通年	—
教 員 名		山下 祐志: YAMASHITA Yuji					
授 業 概 要							
	本講義は、高専5年間で学習する社会科諸科目の導入的な役割を担っている。したがって、教科書の内容に制約されずに、広く自由な観点から現代社会の諸相を多面的にとらえ、社会科学一般の基本的な考え方やセンスを身につけてもらえるように工夫したいと思う。						
到 達 目 標				評 価 方 法			
(1) 社会科の基礎的な知識として、例えば日本の県名や都市名、半島名が正しく書ける。 (2) 環境問題や時事問題、国際政治・経済の動向に関心を持つことができ、これらに関する新聞記事などの論調を概ね理解できる。 (3) 青年期の発達課題を自覚できる。				①中間試験、②期末試験、③小テストの成績を総合評価する。評価配分は、①40%、②40%、③20%とする。			
学習・教育目標		(F)		JABEE基準1(2)			
授 業 計 画	回	項 目	内 容	回	項 目	内 容	
	第1	導入授業	シラバスの説明と、現代社会の勉強の仕方について、中学校の復習問題を採り入れながら解説する。	第16	経済社会と私たちの生活	市場経済と計画経済の特質を整理する。	
	第2	私たちの生きる社会	地球環境と私たちの未来について考える。	第17	同上	市場経済の仕組みについて考える。	
	第3	同上	同上	第18	同上	同上	
	第4	同上	同上	第19	同上	企業の活動と社会的責任について考える。	
	第5	同上	資源・エネルギー問題と私たちの生き方について考える。	第20	同上	財政と金融政策について考える。	
	第6	同上	科学技術の発達と生命について考える。	第21	同上	同上	
	第7	同上	高度情報化社会について考える。	第22	同上	同上	
	第8	中間まとめ	前期の中間まとめとして試験を実施する。	第23	中間まとめ	後期の中間まとめとして試験を実施する。	
	第9	青年期と自己の形成	青年期の特質と発達課題について考える。	第24	日本経済の現状と展望	戦後日本経済のあゆみを振り返る。	
	第10	青年期と自己の形成	同上	第25	同上	同上	
	第11	同上	同上	第26	同上	同上	
	第12	同上	同上	第27	同上	技術革新の進展と産業構造の変化について考える。	
	第13	同上	同上	第28	同上	同上	
	第14	地図帳学習	地図帳を利用して、基礎知識を確認する。	第29	同上	労働環境の整備について考える。	
	第15	まとめ	前期のまとめを行う。	第30	まとめ	全体の学習事項のまとめと授業評価アンケートを行う。	
自学自習の内容							
関連科目							
教 科 書		谷田部玲生他『新現代社会』第一学習社)					
参 考 書		帝国書院編集部編『標準高等地図』(帝国書院)					
授業評価・理解度		最終回到授業評価アンケートを行う。					
副担当教員							
備 考		基礎的な学力を身につけるため、小テストを繰り返す。					